



## 女性が活躍できる文化 「女性 100 人アンケート」発表

一般財団法人 未来を創る財団

アンケート結果の概要:

Q1 「働く女性たちのストレスは沸点を超えている」	47%の女性が賛同
Q2 「アメリカの現状は日本と似ている」	50%の女性が賛同
Q3 男女の扱いについて「男女の特性に考慮した結果的平等」	2/3 の女性が賛同
Q4 「日本はやがて女性の問題を解決する」	54%の女性が賛同

Q5 「諸国に比べ女性の社会進出が少ない」と言われる原因

① 育児と両立しない	63.2%
② 男は外で仕事、女は家庭でという文化、考え方に根差す	56.6%
③ 勤労に応じた報酬が得られない	45.4%

Q6 「諸国に比べ長時間労働が多い」と言われる原因

① 先に帰りにくい職場の雰囲気	52.6%
② 生産性の悪い勤務環境	50.7%
③ 長時間勤務しないとこなせないほどの仕事量	44.1%

Q7 「女性の進出への解決策として有効と思われるもの」

① 社会の意識改革	84.9%
② 企業の生産性向上	32.9%

項目別意見: (Q1)7 (Q2)7 (Q3)4 (Q4)5 (Q5)20 (Q6)9 (Q7)25 (Q8)その他の意見 37  
合計 114

期 間:2014年10月16日~2014年11月15日

方 法:メール、郵送およびインターネット・アプリケーションによる女性への質問

発信数:直接発信数 約 200 件 (紹介者を介した)間接発信数 推定 300 件

回答数:152

回答者の地域:首都圏を中心に一部関西圏その他の地域など主として都市圏

回答者の属性:年齢・家庭・職場環境・居住地区は広範、ほぼ全員勤務経験あり

実施者:一般財団法人 未来を創る財団

\* この調査は未来を創る財団の設立 1 周年記念事業として企画しました。

「働く女性たちのストレスは沸点を超えている」にほぼ半数が同意しているのに驚いた。

男女共同参画は戦後一貫して叫ばれ、少子高齢化の懸念が指摘されて30年もたつのに、政府は本気でこの問題に取り組んで来なかったということへの怒りと受け止めるべきであろう。

労働力人口が毎年1%以上減少する世界を目前にひかえ、女性に活躍してもらわなければ日本という国の将来はないのに、いまだに目先の党利党略が横行する政治への苛立ちのようにもみえる。

稲葉 陽二 日本大学法学部政治経済学科・大学院法学研究科教授  
(専門 日本経済論、ソーシャル・キャピタル論)

このアンケート調査は、未来を創る財団が発行するニュースレターLADY 第1号「女性が活躍できる文化ー女性先進国へむけてー」大江紀洋氏(WEDGE 編集長)をもとに、執筆者のご了解を得て、女性が活躍できる文化」について当財団のパブリック・コミュニケーション部門で作成した女性に対する7つの質問に回答いただくかたちで行いました。

ー 調査結果の詳細は次ページ以降をご覧ください ー

アンケート意見集:ホームページに掲載

アンケートの各質問項目に対する回答者のご意見 (Q1) 7 (Q2) 7 (Q3) 4 (Q4) 5 (Q5) 20 (Q6) 9 (Q7) 25 (その他の意見) 37 計 114 をホームページ <http://goo.gl/DaZ1vg> に掲載しています。

アンケート質問本文:

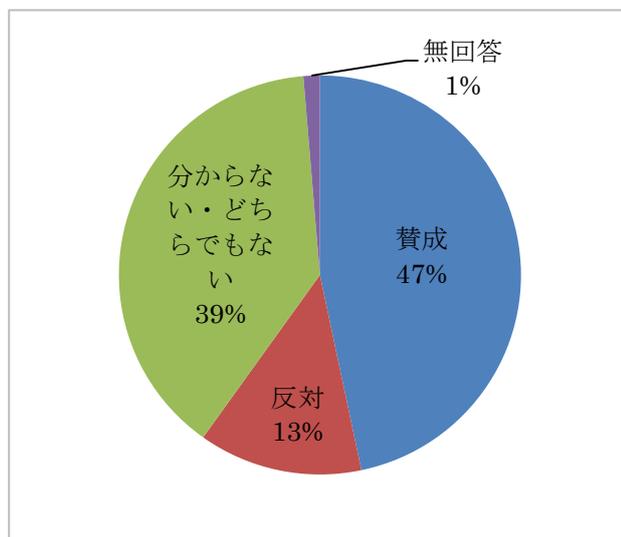
アンケート質問本文は、当財団までご請求いただくか、当財団ホームページ「テーマ&ネットワーキング」 <http://goo.gl/gWrK7D> でご覧ください。

## 調査結果とコメント:

(未来を創る財団 パブリック・コミュニケーション部門 作成)

### Q1:「働く女性たちのストレスは沸点を超えている」に賛成ですか？

(回答者数:152名) 意見 7 件



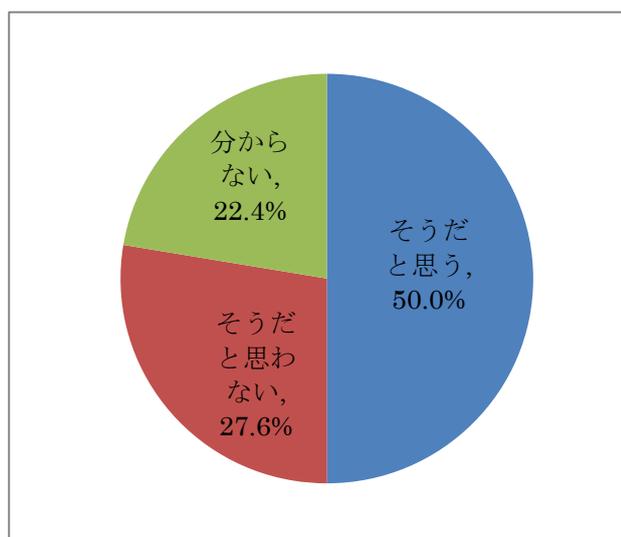
沸点を超えていることに、半数近い女性が賛成した意味は深い。

女性の労働参画が基本的に不十分である、能力が生かされていない、十分な評価が得られていない、参画には大きな負担を伴う、これに社会すなわち男性側の理解が十分でない現状、などが重層的蓄積したものと想像できる。

これらの改善を放置して、少子高齢化の対策だからと働くことを求められても、素直に入っていけないことは不思議でない。

### Q2:アメリカの現状は日本と似ているとするこの見方に同意しますか？

(回答者数:152名) 意見 7 件



執筆者も語っているとおり、米国は進んでいる、わが国は立ち遅れている、という認識は、広くわが国にあった。

今回、執筆者の見解に 50%の女性が率直に賛成していることは、感性の柔軟性を示している。

日米女性同士の連帯感も感じられる。

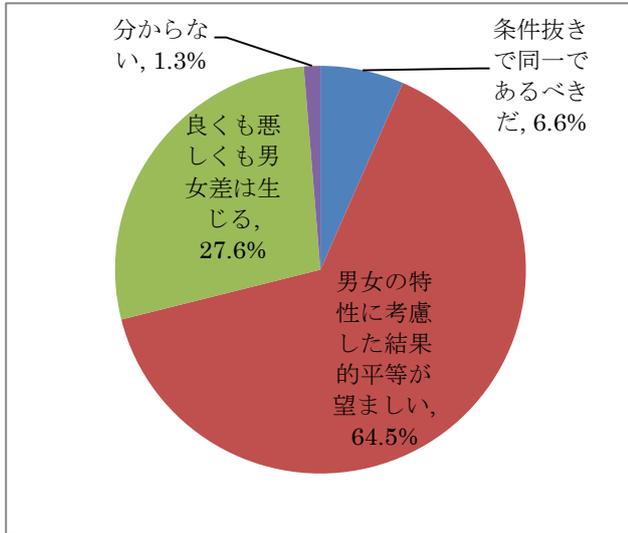
この結果からは、自信をもった女性像が浮かぶ。これは Q4 のポジティブな答えにもつながる。

女性の力が世界 104 位\* なのではなく、社会制度の問題に相違ない。

\* ダボス会議を主催している世界経済フォーラムの調査:世界男女間格差ランキング 2014 で日本は主要国最低の 104 位とされる。

その他の調査でも女性役員比率、女性国会議員比率などで日本はつねに最下位グループ。

**Q3:男女の扱いについて**  
 (回答者数:152名) 意見 4 件

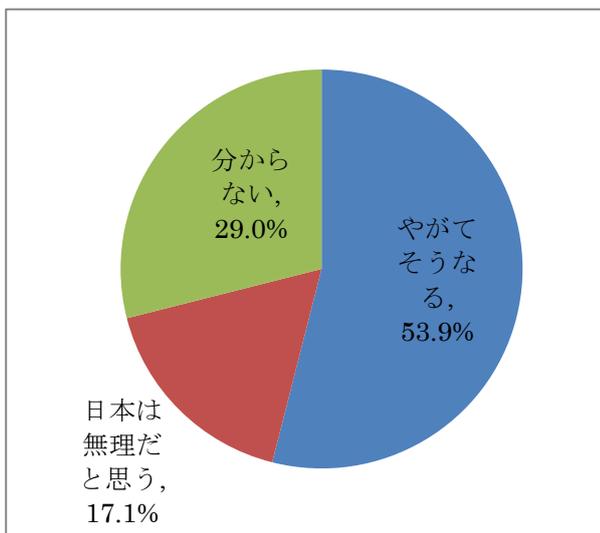


条件抜きの平等は 6.6%にとどまっている。男女平等論がある程度進展して、平等の中身を問う人たちが圧倒的多数を占めた。

一方、男女の特性に考慮した結果的平等というだけでは、具体的中身はない。今後の議論の進化が望まれる。

進んでいると思われがちな米国でも、事情は大同小異である。シェリル・サンドバーグ女史は、優秀で成功した女性の贅沢ななやみだという批判もある。ある意味米国の方が過酷な条件にあるともいえる。

**Q4:「日本はやがて女性の問題を解決する」この楽観論を肯定しますか？**  
 (回答者数:152名) 意見 5 件



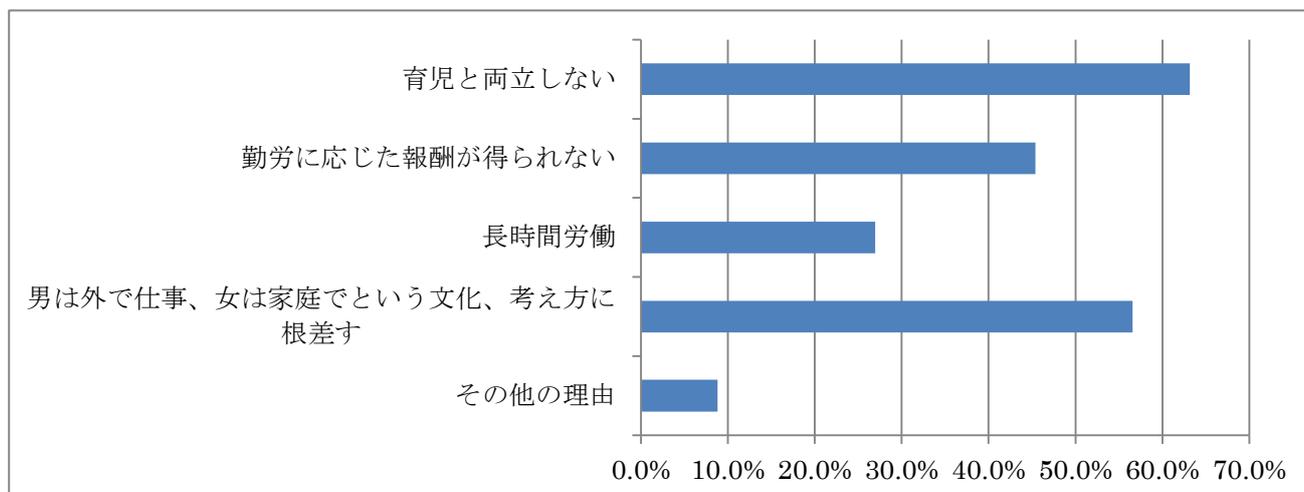
半数以上の回答者がポジティブな回答を出した。悲観論と 3:1 の大差が意味するものは、他の回答結果とあわせれば、単なる楽観論でなく、それなりに自信のある肯定論に見受けられる。

これまで抽象論の域を出なかった「女性の活躍できる文化」論に対して、社会全体の意識の変化や、ささやかながら動き出した育児支援など、具体的な動きを感じ取った結果ではないだろうか。

日本の将来に対しても、女性の方がポジティブな見方をしているかもしれない。

Q5: 諸国に比べ女性の社会進出が少ないと言われていています。その原因は？

(複数回答あり) 意見 20 件



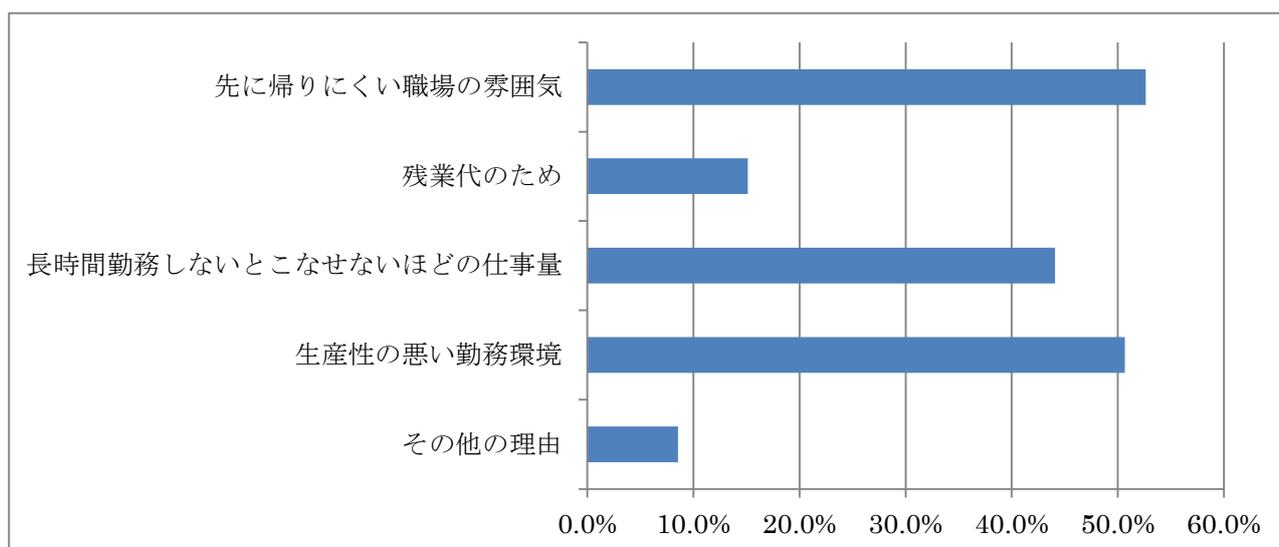
「育児と両立しない」「男は外で仕事、女は家庭でという文化、考え方に根差す」「勤労に応じた報酬が得られない」が 3 大理由になった。

社会の体制の問題、日本の文化の問題、企業の体制の問題と全部が出そろった。

ここから先は、大きく切り分けたそれぞれの課題をブレイクダウンして、課題解決に向けた専門部会を設定し、国をあげて取り組むことが日本活性化の早道になる。

国をあげて取り組めば、世界で上位にランクされる女性活躍国家となる可能性は大いにある。

Q6: 諸国に比べ長時間労働が多いと言われる原因について (複数回答あり) 意見 9 件



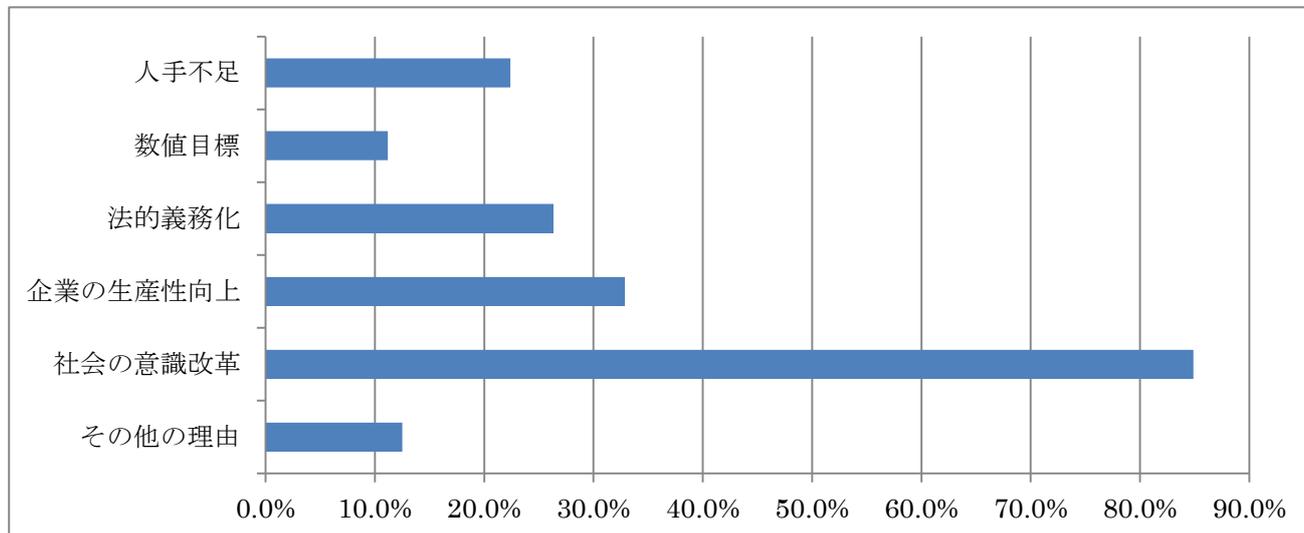
長時間労働要因の 3 点セットがはっきり出た。

この問題は、女性問題でなく、男女を問わない企業サイドの必須改善事項だ。

ただ少子高齢化ばかりを唱えるのではなく、これら長時間労働要因の解決に取り組む社会を造り

あげることこそが、具体的な解決になる。企業の生産性も高まる。国際競争力も強化される。男女の別なく共通の課題として、社会が取り組むべき最重要テーマである。

### Q7:女性の進出への解決策として有効と思われるものは？（複数回答あり）意見 25 件



圧倒的多数の意見として、社会の意識改革。

ここまで多くの方が同じことを考えている問題はまず皆無ではないか。

社会として手をこまねいていることが 104 位に終わる原因かもしれない。

この問題は、さらにブレイクダウンして、意識改革の道筋を見出す努力が必要だ。

問題の深堀を進めたい。

その他の意見:37 件（意見合計 114 件 全意見はホームページ <http://goo.gl/DaZ1vg>）



当財団のニュースレターは、未来を拓く提言を発信します。

ご意見、賛同、助言、ご提言を財団までお寄せください。

一般財団法人「未来を創る財団」事務局 パブリック・コミュニケーション担当

[abrighterfuture@theoutlook-foundation.org](mailto:abrighterfuture@theoutlook-foundation.org)

<http://www.theoutlook-foundation.org/>

ニュースレターの配信をご希望になる場合は当財団事務局パブリック・コミュニケーション担当までご連絡ください。

[abrighterfuture@theoutlook-foundation.org](mailto:abrighterfuture@theoutlook-foundation.org) または Fax 03-5489-0506